



西野博之さん

フリースクール支援、現場はどう見ている？

子どものいのちを真ん中に

「フリースペースたまりば」理事長・西野博之さん

市民と行政の協働で実現

多様な学びびびくりのモデル

第7回「日本フリースクール大会」のシンポジウム抄録を掲載する。フリースクール支援に取り組み始めた行政の動きを学校外の居場所関係者はどう見ているのか。今号は「フリースペースたまりば」代表の西野博之さん。

私たちは1991年に「フリースペースたまりば」を開設し、2003年に神奈川県川崎市とともに公設民営型の「フリースペースえん」を立ち上げ、運営してきました。そこに昨年10月27日、下村博文文科科学大臣が視察に来られました。市民と行政が協働して居場所をつくってきたこと、ここに大臣視察の意味があるのだからと私は考えています。

「フリースペースえん」は公設民営で、通うのにお金はかかりません。ここが非常に大切なんです。というのも、近年現場で感じるのは「貧困」の問題です。経済的な苦しさから、居場所に通う費用を工面できないという声を多く聞くようになりまし

ただ、それだけではありません。たとえば、特別支援学級に在籍している子どもが不登校になった場合、適応指

導教室では受け入れることができない自治体が多い。それは公費の二重使いになるから、というのがその理由だそうなんです。また川崎市を例に言いますと、適応指導教室のキャパシティは市内の不登校児童生徒全体の15%程度しかありません。つまり、不登校している大半の子どもは行き場所が公的には用意されていないわけなんです。こうした従来から山積している課題、昨今の「貧困」という現状などを勘案すると、これは行政課題であると言わざるを得ません。大臣も熱心に改革を訴えられていたんですが、何をどう変えるのか。そして「貧困」についてはどのような支援を講じるつもりなのか。そこを見定め、要求すべきことは訴えていきたいと思っています。

ありのままに居られる場を

私たちは既存の制度に無理やり子どもを合わせるのではなく、子どもの「いのち」のほうに制度や仕組みを引き寄せたいと願って活動してきました。言い換えれば「子どものいのちを真ん中にしよう」ということです。そのためには、子ども一人ひとりがあつちのままだで楽しくいられる学校やフリースペースといった場が必要で、そこに関わるスタッフの力量形成も不可欠です。残念ながら、学校の先生の中には「子どもがどんな思いで学校に行きづらくなったのか」「その子どもが学校外の居場所でのどのようにつながっているのか」ということを知らないまま、教員を続けている方が数多くいらっしゃいます。そこで今、これから教員を目指すという方も含め、フリースクール等で研修が受けられるよう、県との協働事業を進めています。

「たまりば」でも4月から1年間、教員の方を受け入れる予定です。このように学校とフリースクール等が連携する仕組みというのが、子どもの多様な学びをつくる過程で必要な取り組みだろうと考えています。

「フリースペースえん」

「フリースペースえん」は、発達障害が理解されずに、学校で「困った子」と見なされ、クラスから排除されてきた子どもも通ってきます。「困った子」ではなく、「困っている子」なんです。彼らは自由に木に登り、のこぎりやナタを使い、たき火もする。好きな時に音楽を奏で、絵を描く。そんな環境のなかで、情緒的に安定し、「コミュニケーション能力を高めています。市民と行政が協働するなかで、そういう居場所が実現できているということ。ここに、多様な学びを実現するうえで、一つのモデル像がある」と私は考えています。それを国が本気で支援しようという姿勢が見えてきている今、この流れを戻してはいけないと思います。

「だれもが『生きていく』ただそれだけで祝福される」。多様な学びの前提として、そういう居場所をみなさんとともにつくっていきたいというのが私の思いです。子ども一人ひとりの「いのち」が祝福される学びへと、社会の仕組みを変えていく。2015年をそのスタートにしたいと思っております。ありがとうございます。

西野博之へのしるひろゆき

NPO法人フリースペースたまりば理事長。06年より「川崎市子ども夢パーク」の所長。「フリースペースえん」代表も務める。30年に渡って、不登校や高校中退した子ども若者の居場所づくりと支援を続けている。14年には生活保護家庭でひきこもっている若者を対象とした「川崎若者就労自立支援センター・プロジェクト」を同市の委託により開設。同センターの総合アドバイザーを務める。

発達障害の理解を深めるために 第4回 武居光さんとその支援者仲間と語る! 「発達障害」の山をおりる～診断後の生き方について、わたしたちの課題～

日時 2015年3月14日(土) 午前10時半～午前12時半
会場 川崎市子ども夢パーク2階多目的室(神奈川県川崎市津田山)駅より徒歩7分
参加費 無料(定員40名、要予約)
講師 武居光さん(十愛療育会、たちほどがや副所長)
主催 NPO法人フリースペースたまりば
連絡先 (TEL)044-833-7562 (メール)freespace@tamariiba.org

たまりばフェスティバル “ハッピー～えんどレス!?”

日時 2015年3月7日(土) 午後2時～午後5時半
会場 川崎市男女共同参画センターすくらむ21(神奈川県川崎市東急田園都市線「溝の口」駅、JR南武線「武蔵溝ノ口」駅から徒歩10分)
参加費 小学生100円、中学生500円、大人1300円、協力券1000円
内容 手作り発表会、展示発表、ビデオ上映、楽器演奏、オリジナル演劇、ダンスほか出し物多数
主催 NPO法人フリースペースたまりば
連絡先 (TEL)044-833-7562 (メール)freespace@tamariiba.org

「たまりばイベント情報」